

## 個別物質全項目表示(1/1)

[データの取扱について](#)神奈川県環境科学センター  
環境情報部

## 全項目表示

項目	内容
物質名	2-プロパノール
日本語名	2-プロパノール IPA イソプロパノール イソプロピルアルコール ジメチルカルビノール プロパノール プロピルアルコール
英語名	2-PROPANOL DIMETHYLCARBINOL ISOPROPANOL ISOPROPYLALCOHOL PROPYLALCOHOL(SECONDARY)
示性式 分子式	(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub> CHOH C <sub>3</sub> H <sub>8</sub> O
各種コード番号	CAS番号:67-63-0 RTECS番号:NT8050000 既存化学物質番号:2-207
骨格	直鎖炭素鎖(飽和) 分枝炭素鎖(飽和)
官能基	ヒドロキシ基
用途	香料 溶剤, 洗浄剤 溶剤・界面活性剤等その他 殺菌剤, 防かび剤, 防汚剤 医薬, 医薬中間体 衛生材料・農薬その他 合成中間体 脱水剤 各種添加物 等その他 凍結防止剤, ブレーキ油調合剤, 変質剤
取扱量(トン)	調査年 対象地域 取扱量 1995年 神奈川県 84945.06 1995年 横浜市 2791.26 1995年 川崎市 75770.61
外観的特徴	外観 無色透明の流動性液体 臭気 少し臭気をもつ その他外観的特徴 軽い苦味, 可燃性
物理的性状	分子量 60.09 ~60.11 比重 0.7854 ~0.7863 比重測定温度(°C) 20 ~20 蒸気密度 2.07 溶解度 水に可溶 融点(°C) -89.5 ~ -86 沸点(°C) 82 ~82.4
燃焼性	常温で引火する。熱、炎、酸化剤に曝されると爆発の危険性あり。

燃焼・爆発特性	爆発範囲(%) 2 ~ 12	
	引火点(°C) 11.7 ~ 12	
	発火点(°C) 425 ~ 460	
	混合発火危険程度	蒸気は空気と爆発性混合ガスを作る。衝撃、熱により爆発の危険性(H <sub>2</sub> O <sub>2</sub> )、接触により発火の危険性(無水クロム酸)。
	混合危険性	酸化剤と激しく反応する。
混合危険物質名	エンソサンナトリウム カエンソサンナトリウム カサンカスイソ ショウサンアンモニウム ショウサンナトリウム	
生化学的性状	LogPOW 0.05	
法規制	水質汚濁防止法	要調査項目に係わる物質
	労働安全衛生法[名称等表示]	表示対象物質
	労働安全衛生法[名称等表示]	名称等を通知すべき有害物
	労働安全衛生法[特化物等]	第2種有機溶剤
	消防法[危険物]	危険物第4類
条例・要綱及び指針	旧神奈川県化学物質環境安全管理指針(参考)	特定管理物質
	旧神奈川県先端技術産業立地環境対策指針(毒性係数分類)	D類物質(旧)
	旧横浜市化学物質適正管理指針	管理物質
許容濃度	ACGIH	TWA(ppm) 200
		STEL(ppm) 400
	日本産業衛生学会	最大許容濃度(ppm) 400
		最大許容濃度(mg/m <sup>3</sup> ) 980
急性毒性	対象動物種 投与経路 試験時間 毒性数値種類 毒性数値	
	ラット 静脈内注射	LD50 1099 mg/kg
	ラット 腹腔内注射	LD50 2735 mg/kg
	ラット 経気道 8時間	LCLo 12000 ppm
	マウス 経口	LD50 3600 mg/kg
	マウス 静脈内注射	LD50 1509 mg/kg
	マウス 腹腔内注射	LD50 4477 mg/kg
	マウス 経気道 3時間	LCLo 12800 ppm
	ウサギ 腹腔内注射	LD50 667 mg/kg
	イヌ 経口	LD50 4797 mg/kg
	ラット 経口	LD50 5045 mg/kg
変異原性	試験種類 実験生物 結果	
	染色体異常試験 ラット(生体内)	陽性
	染色体異常試験 イースト(酵母)	陽性
毒性症状	吸入、腹腔内投与により中程度の毒性を示す。皮フを通しての毒性は低い。局部的に刺激性を及ぼし高濃度においては麻酔性がある。角膜を刺激し、しばしば眼の損傷をもたらす。眼に弱い刺激を与え、400ppmでは鼻やのどを刺激する。経口摂取、多量のガスの吸入により赤面、頭痛、めまい、ふさぎ込み、むかつき、吐き気麻痺症状、無感覚症状、昏睡を生じる。100mlで致命的となり得る。	
発ガン性	評価機関	評価内容
	IARC発癌性評価 3[発ガン性の評価ができない物質]	

測定データ	濃度 100-6300ng/m3 調査年 1995 調査対象 大気 調査地域 一般環境 測定地点 神奈川県内
事故事例	
事故の名称	イソプロピルアルコール製造装置配管火災
発生日	1977/04/11
時刻	15:30:00
事故の概要	装置は当時定修中であった。副生ガス配管の改造をこの期間に実施するため、窒素置換など一連の必要な措置を完了し、スチーミングを開始したところ、配管の内壁等に付着していた可燃性成分がドレンとなって、スチームおよびスチームドレン放出口から大気中に放出され、下部にあったスチーム管(温度約400℃)に接触したため発火した。
事故の原因	現場に即した教育がなされていなかった。作業に危険はないと判断した。
発生場所	川崎・横浜コンビナート
管理手法	吸湿性。密封。冷乾燥場所に保管。火災下容器爆発することがある。
取り扱い上の注意	アルミニウム、鉄、モネル合金は腐食される。非合金炭素鋼、ステンレス鋼、銅、青銅、ポリエチレン、ゴムは耐久性がある。
取扱い保護具	【皮膚】保護手袋、安全シャワー 【吸入】換気または呼吸用保護具 【眼】安全ゴーグル、洗眼器
事故時処理キーワード	希釈する 水噴霧 避難を検討する
事故時処理概要	【危険地域内】機械を停止し、発火物を除去する。喫煙を禁止し、裸火を消す。火花を発生する電気器具類、開閉器を停止する。【火災】小規模火災では、水、ドライケミカル、炭酸ガス。大規模火災では、耐アルコール泡、水噴霧。容器を水噴霧で冷却し危険地域外に移す。【漏洩】危険がない場合は漏洩部をふさぐ。【流水】飲料水、用水、冷却水の取水者に了解を求める。【停留水】周囲を遮断し、危険地域の乗物を移動させる。【陸上】防止堤で囲みポンプで汲みとる。低域空間をふさぐ。発火源を全部取り除く。残存物は不燃性で吸収力のある材料で覆い、密閉容器に入れ安全な集積所に廃棄する。
事故時保護具キーワード	火災または分解の場合のみ重装備の呼吸防護(激しく反応する)
事故時保護具概要	周辺空気と無関係の(重装備の)呼吸防護器具を着用する。
救急応急処置キーワード	医師を呼ぶ 呼気吹き込み 水洗浄(身体) 酸素吸入 身体保温 人工呼吸 水洗浄(眼) 側臥位(意識喪失時)
救急応急処置概要	傷病者を新鮮な空気の所に移し、安楽に待機させ、窮屈な衣服部分をゆるめる。呼吸停止の場合、呼気吹き込み、人工呼吸、酸素吸入。ぬれた衣服部分、靴、靴下を脱がせ、遠ざける。接触した身体部位を水で洗浄する。眼に入った場合は10-15分間水で洗浄する。そのためまぶたを親指と人さし指で拵げ、同時に眼をあらゆる方向に動かす。医師を災害現場に呼ぶ。傷病者の身体を冷やさない。意識喪失の危険がある場合、待機、搬送は安定な側臥位で行う。

(1/1)

国立環境研究所WebKis-Plusのデータを別画面で見る

[67-63-0](#)

国立医薬品食品衛生研究所ICSCのデータを別画面で見る

[2-プロパノール](#)

化学物質リンクセンターのデータを別画面で見る。

リンクセンターに接続すると、データが存在するリンク先の一覧が表示されますので、リンク先をクリックしてください。

画面が表示されないときは、タスクバーを確認してください。

[検索メニューへ戻る](#)

[神奈川県環境科学センター](#)  
環境情報部